

## 学部カリキュラムの、 5つの大きな特色

### 基礎教育科目

高等学校における教育からの円滑な接続を図り、大学で専門各分野の学習を進めるための基礎を固める科目です。現代の全ての教員に必要な基礎的な資質・能力を修得させるため、教育職員免許法で履修が義務付けられている「日本国憲法」「情報機器の操作」「健康・運動系科目」「外国語コミュニケーション」に加えて、「特別支援教育概論」「環境・防災教育」を必修科目として設定しています。また、「外国語科目」から4単位を必修として、基礎教育選択科目から4単位以上を選択必修として学びます。

#### 基礎教育選択科目

- 教職基礎技法
- 人権教育
- 学校給食
- 情報機器の活用
- 性・文化・ジェンダー
- 保幼小連携教育論
- 発展英語
- 運動部活動の教育学

#### 日本国憲法

#### 健康運動系科目

- 体育実習
- 健康・運動論

#### 外国語科目

- 英語

#### 外国語コミュニケーション

- 英語コミュニケーション

#### 特別支援教育概論

#### 環境・防災教育

### 情報処理専門教育科目

#### 資格取得 関連科目

#### ●学校図書館司書教諭

学校図書館法に基づき学校図書館に配置されている専門的職員です。この資格は、当該科目の必要な単位の修得だけでなく、教育職員免許状を取得することが前提です。

#### ●社会教育主事

社会教育法に基づき都道府県及び市町村教育委員会に置かれる社会教育に関する専門的職員です。この資格は、当該科目の必要な単位の修得だけでなく、1年以上社会教育主事補の実務経験が必要です。

# 1

教科等専門科目の学力を重視しているため、卒業後、自信を持って指導に当たることができます。

# 2

「教育実習とそれに直接関連した科目群」を通じて教科専門科目と教職専門科目とを有機的に結び付け、豊かな実践力を培っていきます。

### 基盤教養科目

基礎教育科目と同様に、全課程に共通して設けられている科目です。「人間の発見」「世界の発見」「科学の発見」の3分野について学びます。大学での専門分野の勉学を深めるため、また社会人として生涯学び続ける姿勢を身に付けるため、その確かな知的基盤を形成する科目が設定されています。

#### 人間の発見

- 東北の文学
- 人間と思想
- 教養音楽
- 英米文学
- 自立と共生
- 日本の言語と文化
- 人間と音楽
- 美術による表現
- 言語学

#### 世界の発見

- 社会科学入門
- 法の世界
- 現代のコミュニケーション問題
- 日本の芸能
- ドイツ語入門
- 韓国語入門
- 歴史学入門
- フランス語入門
- 中国語入門
- 海外総合演習

#### 科学の発見

- 数学概論
- 数学の世界
- 現代生活の科学
- 理科基盤講義

### 現代的課題科目

教育現場で求められていながら、従来の教科や学問領域には収まりきらない内容を多面的に学ぶことによって、所属するコース・専攻の専門性のほかに、もう一つの得意分野を身に付けます。

特別支援教育

適応支援教育

多文化教育

現代世界論

食・健康教育

自然環境教育

芸術表現教育

メディア情報教育

自然科学論

# 3

「現代的課題科目」を通じて、今、教育現場で求められる現代的課題についての深い教養と問題解決能力を養うとともに、自分の所属するコース・専攻の専門分野のほかに、もう一つの得意分野を身に付けることができます。

# 4

「特別支援教育概論」「環境・防災教育」を全学必修科目とし、今、教育現場で求められている素養を確実に身に付けさせます。

# 5

学年を超えて学び合う授業や、実践的な実験・実習・演習を取り入れた授業科目を数多く用意し、コミュニケーション能力・協働作業能力・問題解決能力などを無理なく伸ばし、生涯にわたって学び続ける姿勢を育てていきます。

## 教職専門科目

教師としての教養を高め、現場の課題に適切に対応できるよう、学校教育活動に直接関わる事柄を学びます。教育の本質や目標、子どもの発達過程と学習のあり方、各教科の指導法などが含まれます。

- 教職入門
- 国語科教材研究法
- 社会科教材研究法
- 算数科教材研究法
- 理科教材研究法
- 生活科教材研究法
- 音楽科教材研究法
- 図画工作教材研究法
- 体育科教材研究法
- 家庭科教材研究法
- 国語科教育法
- 中等社会科教育法
- 社会・地歴科教育法
- 社会・公民科教育法
- 数学科教育法
- 理科教育法
- 音楽科教育法
- 美術科教育法
- 保健体育科教育法
- 技術科教育法
- 家庭科教育法
- 英語科教育法
- 工業科教育法
- 保育内容指導法
- 幼稚園教育課程論
- 道徳教育の研究
- 児童・生徒理解
- 幼児理解
- 教育相談
- 教育の原理
- 発達と学習の心理
- 教育と社会
- 教育の制度
- 社会教育論
- 教育の方法・技術
- 教育課程の研究
- 教育の歴史
- 比較教育事情
- 子ども学
- 生涯学習論
- 教育現場と法
- 教育と情報
- 教職実践演習

## 教育実習とそれに直接関連した科目

教育現場での授業観察を含む「教育実践体験演習」、「実践研究A」「実践研究B」は、学問体系に基づいた学修と教育現場での体験的な学修を有機的に結び付けるためのものです。体験的な学修を段階的に深め、3・4年次の教育実習に結び付けることにより、学問の大切さを知り、生涯にわたって学び続ける教員の養成を目指します。

- 4年次 教育実習
- 4年次教育実習事前・事後指導
- 3年次 教育実習
- 3年次教育実習事前・事後指導
- 3年次 実践研究B
- 2年次 実践研究A
- 1年次 教育実践体験演習

## 教科専門科目

各課程におけるコース・専攻の専門領域の特徴に応じて、講義、演習、実験、実技、実習と様々な形式でコース専門科目・専攻専門科目の授業が展開されます。また、4年間の締めくくりとしての卒業研究は、本学で学んだ内容の総仕上げとなります。

- 初等教育教員養成課程
  - 小学校の教科科目
  - 幼児教育コース・コース専門科目
  - 子ども文化コース・コース専門科目
  - 教育学コース・コース専門科目
  - 教育心理学コース・コース専門科目
  - 国語コース・コース専門科目
  - 社会コース・コース専門科目
  - 英語コミュニケーションコース・コース専門科目
  - 数学コース・コース専門科目
  - 理科コース・コース専門科目
  - 情報・ものづくりコース・コース専門科目
  - 家庭科コース・コース専門科目
  - 音楽コース・コース専門科目
  - 美術コース・コース専門科目
  - 体育・健康コース・コース専門科目
- 中等教育教員養成課程
  - 国語教育専攻・専攻専門科目
  - 社会科教育専攻・専攻専門科目
  - 英語教育専攻・専攻専門科目
  - 数学教育専攻・専攻専門科目
  - 理科教育専攻・専攻専門科目
  - 技術教育専攻・専攻専門科目
  - 家庭科教育専攻・専攻専門科目
  - 音楽教育専攻・専攻専門科目
  - 美術教育専攻・専攻専門科目
  - 保健体育専攻・専攻専門科目
- 特別支援教育教員養成課程
  - 視覚障害教育コース・特別支援専門科目
  - 聴覚・言語障害教育コース・特別支援専門科目
  - 発達障害教育コース・特別支援専門科目
  - 健康・運動障害教育コース・特別支援専門科目